

令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立城東小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問調査）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	46人	算数	46人	理科	46人
第5学年	国語	53人	算数	53人	理科	53人

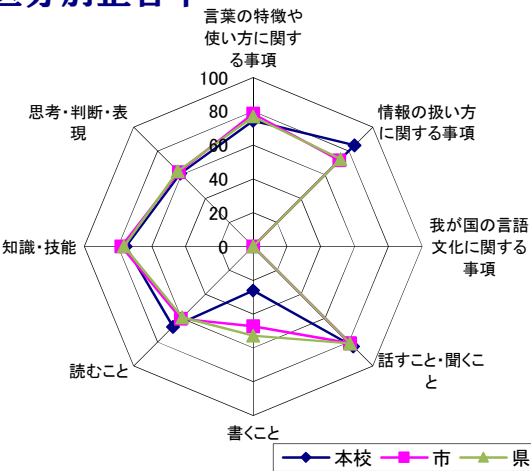
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立城東小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	74.4	78.6	76.9
	情報の扱い方にに関する事項	84.8	72.2	73.1
	我が国の言語文化にに関する事項	0.0	0.0	0.0
	話すこと・聞くこと	83.7	81.0	81.1
	書くこと	26.1	47.2	52.8
	読むこと	67.1	60.5	59.3
観点	知識・技能	75.4	78.0	76.5
	思考・判断・表現	61.0	62.3	63.1



★指導の工夫と改善

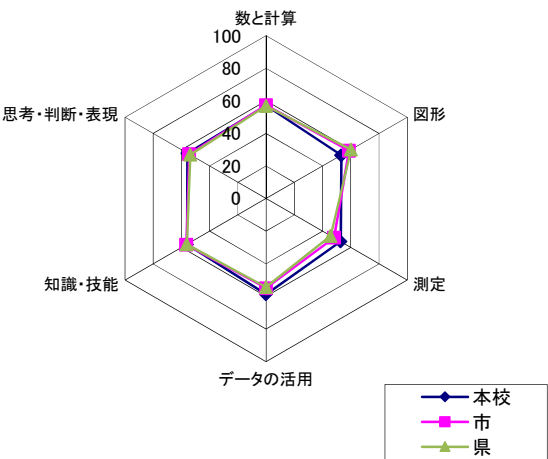
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	●「言葉の特徴や使い方にに関する事項」の平均正答率は、県の平均正答率を2.5ポイント、市の平均正答率を4.2ポイント下回っている。 ●漢字の読み書きに関する問題では、ほとんどの問題で県と市の平均正答率を下回った。 ●主語と述語の組合せとして適するものを選ぶ問題では、県の平均正答率を4.2ポイント、市の平均正答率を4.9ポイント下回っている。	・朝の学習や宿題で既習漢字を定期的に復習させたり、自主学習で苦手な漢字の練習に取り組むよう促したりして、漢字学習の機会を増やし、定着を図る。 ・主語と述語を組み合わせて文を作る活動を通して、文の構造に慣れ親しむよう、指導を行う。
情報の扱い方にに関する事項	○「情報の扱い方にに関する事項」の平均正答率は、県の平均正答率を11.7ポイント、市の平均正答率を12.6ポイント上回っている。 ○国語辞典に載っている順番として正しいものを選ぶ問題では、県の平均正答率を11.7ポイント、市の平均正答率を12.6ポイント上回っている。	・授業の中で出てきた言葉について、国語辞典で調べる活動を引き続き行い、国語辞典の使い方に慣れ親しむことができるようにする。
話すこと・聞くこと	○「話すこと・聞くこと」の平均正答率は、県の平均正答率を2.6ポイント、市の平均正答率を2.7ポイント上回っている。 ○「話すこと・聞くこと」の問題では、ほとんどの問題で県と市の平均正答率と同等であった。	・話し合い活動を行うときに、聞き手に考えが伝わりやすい言い方を工夫するとともに、司会者として意見をわかりやすくまとめながら話し合いを進められるような指導を行う。 ・相手の話を聞いて、要点を捉え、短い言葉でメモをすることができるような指導を行う。
書くこと	●「書くこと」の平均正答率は、県の平均正答率を26.7ポイント、市の平均正答率を21.1ポイント下回っている。 ●自分の考えを明確にして文章を書く問題では、県の平均正答率を27.9ポイント、市の平均正答率を22.5ポイント下回った。	・国語の学習に限らず、文章を書く活動を取り入れるように努め、内容のまとまりで段落を作ったり、段落相互の関係性に注意したりして、文章の構成を考えるよう指導していく。 ・文章を書くときは、自分の考えとそれを支える理由や事例を明確にして、書くことができるよう指導する。
読むこと	○「読むこと」の平均正答率は、県の平均正答率を7.8ポイント、市の平均正答率を6.6ポイント上回っている。 ○●文章の要約を読み、空欄に適する言葉を書き抜く短答式の問題では、県や市の平均正答率を5ポイント以上上回っていたが、無回答率は県や市の平均を4ポイント以上上回っていた。	・物語教材の読み取りを通じて、登場人物の心情の変化や場面の様子を文章表現から読み取れるように指導する。また、日常的に読書を行うことを勧め、読解力の向上を図る。 ・説明文の学習では、文と文のつながりに注意を向けながら読み進める力を養う。指示語や接続語、文末の表現などに注目し、中心となる言葉を見付けて内容を的確に捉える学習活動を取り入れる。

宇都宮市立城東小小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	57.1	57.4	56.9
	図形	53.3	58.7	60.1
	測定	52.7	48.1	45.7
	データの活用	58.7	54.9	54.3
観点	知識・技能	56.1	56.6	56.2
	思考・判断・表現	55.8	54.5	53.8



★指導の工夫と改善

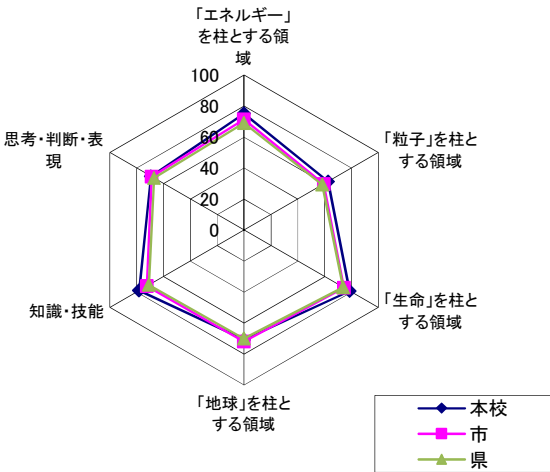
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○「数と計算」の平均正答率は、県や市の平均正答率と同等である。 ○式の意味を言葉で説明したものの中から正しいものを選択する問題では、県の平均正答率を15.1ポイント、市の平均正答率を12.9ポイント上回っている。 ●分数の表す正しい大きさを答える問題では、県の平均正答率を15.4ポイント、市の平均正答率を14.6ポイント下回っている。	・朝の学習の時間を利用したプリント学習や計算スキルの活用を通して、一人一人の計算技能の向上に努める。 ・分数に苦手意識をもつ児童が多く見られるため、分数についての基礎的基本的な既習事項を確認しながら丁寧に復習させるとともに、算数の授業だけでなく日常生活の中で分数を活用する機会を増やしていく。
図形	●「図形」の平均正答率は、県の平均正答率を5.4ポイント、市の平均正答率を6.8ポイント下回っている。 ●正三角形を作図する問題では、県の平均正答率を12.6ポイント、市の平均正答率を10.3ポイント下回っている。 ●球を平面で切ったときの正しい切り口の形を選ぶ問題では、県の平均正答率を11ポイント、市の平均正答率を6.7ポイント下回っている。	・図形についての基礎的基本的な既習事項を確認しながら、作図の仕方を丁寧に指導し、繰り返し練習を行うことで定着を図る。 ・立体を平面で切ったときの切り口や図形の性質、作図の仕方等は、デジタル教科書やタブレット等を用いて視覚的、体験的に捉えさせることで、理解を深めていく。また、児童の理解に応じて教材を工夫したり、作図を練習する機会を設けたりする等、指導の充実に努める。
測定	○「測定」の平均正答率は、県の平均正答率を7ポイント、市の平均正答率を4.6ポイント上回っている。 ○かごに入ったものはかりの目盛りを読み取り、真の重さを求める問題では、県の平均正答率を20.5ポイント、市の平均正答率を14.9ポイントと大きく上回っている。 ●重さや長さについての理解をもとに考え方を説明する問題の平均正答率は、県や市とほぼ同等であるものの、正答率は50%程度と低い。	・日常生活の中で時刻や時間を意識して話題にしたり、長さや重さなどを測る機会を設けたりし、実体験を伴った知識が得られるような指導を行っていく。 ・学習や生活の中で、自分の考えや友達の考えを言葉で説明したり、伝え合ったりする機会を多く取り入れるようにする。
データの活用	○「データの活用」の平均正答率は、県や市の平均正答率と同等である。 ●グラフの特徴を読み取り、選んだグラフが適切である理由を選択する問題では、市の平均正答率を6.6ポイント、県の平均正答率を7.4ポイント上回っているものの、正答率は50%であった。	・算数の授業だけでなく、社会科や理科などの他教科と関連させたり、日常生活の中で表やグラフを活用する機会を増やしたりしていく。 ・様々なグラフの読み方やその特徴を考える学習を丁寧にを行い、必要な情報を正確に選んだり、出題されている文章との整合性を判断したりする学習活動を多く取り入れる。

宇都宮市立城東小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	75.1	71.4	69.1
	「粒子」を柱とする領域	62.5	59.3	58.3
	「生命」を柱とする領域	78.6	74.5	73.8
	「地球」を柱とする領域	70.7	72.0	70.1
観点	知識・技能	78.1	72.5	70.9
	思考・判断・表現	69.4	68.8	67.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	○「エネルギー」を柱とする領域の平均正答率は、県の平均正答率を6ポイント、市の平均正答率を3.7ポイント上回っている。問題の内容別に見ても、ほとんどの問題において県や市の平均正答率を上回っている。 ○輪ゴムの数と車が動いた距離の関係を適切に表した棒グラフを選ぶ問題では、県や市の平均正答率を10ポイント以上上回っていた。 ○「音の性質」については、声が一だけに聞こえた点から糸電話をつまんだ場所を推測する問題で、県の平均正答率を16.8ポイント、市の平均正答率を14.4ポイント上回っている。 ●音を伝えるものの震えを止めたとき、音が伝わらなくなること答える短答式の問題では、県や市の平均正答率を10ポイント程度下回った。	・既習内容や児童の生活経験を基に、予想や仮説をもたせて観察や実験を行い、実感を伴った理解ができるようにする。 ・学習した内容を基に、さらに発展的な考察ができるよう、基礎的な知識について細やかな指導を行い、既習の内容の定着を図るようにする。
「粒子」を柱とする領域	○「粒子」を柱とする領域の平均正解率は、県や市の平均正答率をそれぞれ3ポイント以上上回っている。 B2○「物と重さ」については、重さを比較しながら調べる際に、秤を用いて正しく調べる技能が身に付いているかをみる問題で、県の平均正答率を10.1ポイント、市の平均正答率を8.5ポイント上回っている。	・物の形を変えても重さは変わらないことや体積が同じ物でも材質によって重さが違うことを実験を通して理解できるようにする。 ・実験結果から答えを導き出し、その理由を考えたり話し合ったりする学習活動を通して、理由について具体的に記述できるようにする。
「生命」を柱とする領域	○「生命」を柱とする領域の平均正答率は、県や市の平均正答率を4ポイント以上上回っている。問題の内容別に見ても、ほとんどの問題において県や市の平均正答率を上回っている。 ○ホウセンカが育つ順番に図を並び替える問題では、県の平均正答率を15.2ポイント、市の平均正答率を16.6ポイント上回っている。	・観察や実験の意図や目的をよく考えさせ、主体的に取り組ませるようにする。 ・学習した内容を正しく理解できるように、観察や実験の結果から考察したことなどを全体でしっかりと共有するようにする。 ・基本的な観察の道具の使い方について丁寧に扱い、きめ細やかな指導に努める。
「地球」を柱とする領域	●「地球」を柱とする領域の平均正答率は、市の平均正答率を1.3ポイント下回った。 ○「かげと太陽」については、温度計の使い方が身に付いているかをみる問題で、市の平均正答率7.5ポイント上回っている。 ●方位磁針の正しい使い方を選ぶ問題では、県の平均正答率を11.5ポイント、市の平均正答率を13.5ポイント下回っている。	・観察や実験に使う器具の扱い方を丁寧に指導し、正しく計測できるスキルを身に付けさせる。 ・自然現象と実体験を関連付けて観察したり実験したりすることで、具体的な根拠をあげて考察できるようにする。

宇都宮市立城東小学校 第4学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家庭での学習」での質問では、「家で学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」に肯定的回答をした児童の割合が、県や市の割合を上回っている。自主学習に取り組む児童が多く、学習に意欲的な姿勢が見られる。

○「読書」に関する質問では、「1か月に11冊以上本を読む」と回答した児童が、県や市の平均を大きく上回っている。読書をする習慣がしっかりと身に付いていて、日頃から本に親しんでいることが分かる。授業の中でも、調べ学習などで図書に触れる機会を増やしていきたい。

○「自分自身のこと」の質問では、「自分にはよいところがあると思う」に肯定的回答をした児童の割合が、県や市の割合をやや上回っている。児童が自分の存在や考えに価値を感じ、自分らしさを大切にしながら生活できていることがうかがえる。学校生活の中で、さらに自己肯定感を高めていけるように、互いに認め合えるような活動を実施していく。

○「毎日、朝食を食べている」に肯定的回答をした児童の割合は100%で、県や市の割合をやや上回っている。食育を通して規則正しい生活を送ることの大切さを引き続き伝えるようにする。

○「平日にどれくらいの時間、テレビやDVD、動画などを見たり、聞いたりしますか」についての質問では、「1時間以上、2時間より少ない」と回答した児童の割合が一番多く、県や市の割合を上回っている。また、平日1日当たりのけい帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間については、「30分より短い」と回答した児童の割合は34.8%で、県や市の割合を15ポイント以上上回っている。反面、けい帯電話やスマートフォン、ゲームの使用については、「4時間以上」と回答した児童の割合が18%程度あり、一部課題が見られる。家庭でルールをきちんと話し合い、約束を守って視聴したり、使用したりしている様子が分かる。

●「家庭での学習」の質問では、肯定的回答をした児童の割合は、52.2%で、県や市の割合を12.7ポイント下回っている。学校の授業の復習の大切さや家で学ぶ重要性を理解して、家庭での学びを意識しながら積極的に取り組む必要性がある。また「家で勉強するときに、だいたい同じ時こくに取り組むようにしている」の肯定的回答をした児童の割合は47.8%で、県や市の割合を16ポイント下回っている。同じ時間に取り組むことで学習習慣を身に付けさせ、習慣化することで、より計画的に学びを進められるようにしたい。

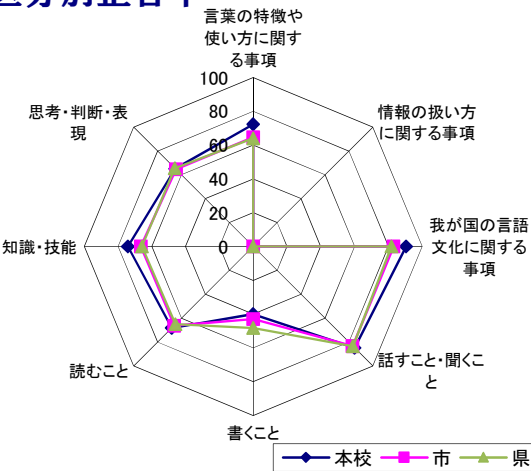
●「学校の宿題は、やりたくなる内容だ」の肯定的回答をした児童の割合が、県や市の割合を大きく下回っている。児童がやりたくなるような内容を宿題に取り入れ、進んで行えるようにする必要がある。

●「教科の学習のこと」の質問では、「社会の学習は好きですか」の肯定的回答をした児童の割合が、県や市の割合を大きく下回っている。社会の内容が児童にとって身近な分野となるよう、学習内容を工夫し、社会に興味関心が高まるようにする必要がある。

宇都宮市立城東小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	72.3	64.7	64.1
	情報の扱い方にに関する事項	0.0	0.0	0.0
	我が国の言語文化に関する事項	90.6	83.1	81.9
	話すこと・聞くこと	84.9	83.3	83.4
	書くこと	40.1	42.8	48.2
	読むこと	68.2	66.1	65.1
観点	知識・技能	74.2	66.5	65.9
	思考・判断・表現	65.3	64.6	65.5



★指導の工夫と改善

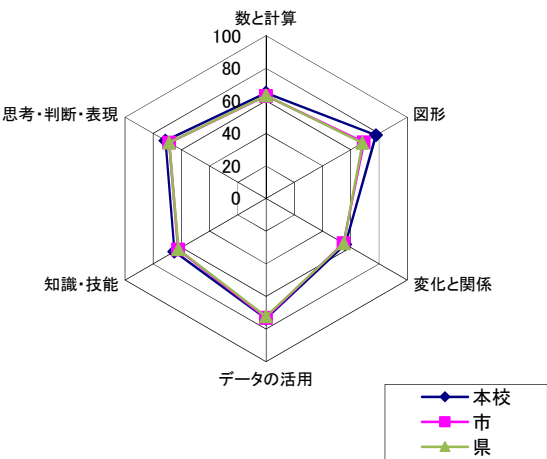
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	○「言葉の特徴や使い方にに関する事項」の平均正答率は、県の平均正答率を8.2ポイント、市の平均正答率を7.6ポイント上回っている。 ○漢字の読み書きの問題では、すべての問題で県や市の平均正答率を上回っている。特に、漢字を正しく書く問題では、県や市の正答率を13.8ポイント以上上回っている。 ●熟語の漢字の組み合わせの種類が同じものを選ぶ問題の平均正答率は26.4%であり、県の平均正答率を12.1ポイント、市の平均正答率を6.6ポイント下回っている。	・朝の学習や宿題で既習漢字を定期的に復習させたり、自主学習で苦手な漢字の練習に取り組むよう促したりして、今後も漢字学習の機会を増やし、定着を図る。 ・言葉の学習において、熟語に触れる機会を多くとり、それぞれの熟語がどのような関係性で成り立っているのかを児童自身が考え、分類できるように演習を繰り返し、熟語の構成を理解できるようにする。
我が国の言語文化に関する事項	○「我が国の言語文化に関する事項」の平均正答率では、県の平均正答率を8.7ポイント、市の平均正答率を7.5ポイント上回っている。	・今後も、ことわざや慣用句を授業で積極的に取り上げ、言語文化に関する学習内容の定着を図る。
話すこと・聞くこと	○「話すこと・聞くこと」の平均正答率は、県の平均正答率を1.5ポイント、市の平均正答率を1.6ポイント上回っている。 ●話し合いの目的を確認し、意見の共通点や相違点に着目しながら、自分の考えをまとめる記述式の問題では、県や市の平均正答率を6ポイント程度下回っている。	・話し合い活動や互いの意見を共有する活動を通して、話し手の意見の中心を捉えたり、自分の意見をまとめて発信したりする機会を作り、話す力や聞く力の向上を図る。
書くこと	●「書くこと」の平均正答率は、県の平均正答率を8.1ポイント、市の平均正答率を2.7ポイント下回っている。 ●「書くこと」では、すべての問題で、県の平均正答率をやや下回っていた。また、すべての問題で、無解答率が県や市を上回っている。	・文章を書くときには、内容を整理し、書きたいことの中心を明確にして、考えをまとめられるように指導する。また、接続詞の使い方についても指導し、理由や具体例を付け加えて文章を書けるようにしていく。 ・文章の書き方を示したり、短い文章を書く機会を多く取り入れたりすることで、書くことに対する苦手意識の軽減を図る。
読むこと	○「読むこと」の平均正答率は、県の平均正答率を3.1ポイント、市の平均正答率を2.1ポイント上回っている。 ○登場人物の気持ちの変化について説明した文として適するものを選ぶ問題では、県の平均正答率を10.9ポイント、市の平均正答率を9ポイント上回っている。 ●文章を読んで感じたことや考えたことを話しているやりとりを読み、適するものを選ぶ問題では、県の平均正答率を4.3ポイント、市の平均正答率を3.8ポイント上回っている。	・物語教材の読み取りを通して、登場人物の心情の変化や場面の様子を文章表現から読み取れるように指導する。また、日常的に読書を行うことを勧め、読解力の向上を図る。 ・説明文の学習において、段落の構成や文章の内容を整理して捉える活動を取り入れたり、文章のどこに筆者の言いたいことがあるのか、どこが一番重要な部分なのか、文章の「大切なところ」を見付ける活動を取り入れたりして、読解力の向上を図る。

宇都宮市立城東小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	64.9	63.0	63.3
	図形	77.8	69.2	68.3
	変化と関係	56.0	54.8	55.0
	データの活用	73.6	73.1	72.3
観点	知識・技能	65.0	62.3	62.1
	思考・判断・表現	71.3	68.7	68.7



★指導の工夫と改善

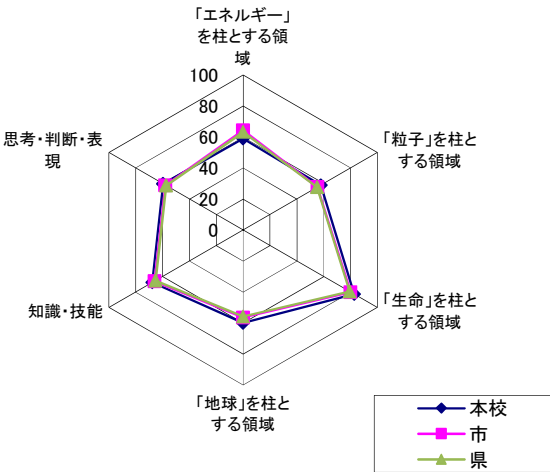
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○「数と計算」の平均正答率は、県の平均正答率を1.6ポイント、市の平均正答率を1.9ポイント上回っている。 ○帯分数の大きさに関する問題では、県や市の平均正答率を10ポイント以上上回っている。 ●数直線上の目盛りが示す分数を読み取り、仮分数で表す問題では、県の平均正答率を9.2ポイント、市の平均正答率を9ポイント下回っており、正答率も39.6%と低い。 ●計算の間違いを説明する記述式の問題では、県や市の平均正答率を7ポイント以上下回っている。	・数直線と仮分数の関係を大型テレビや1人1台端末等のデジタル機器を活用し、視覚的に捉えさせる指導を行うことで、分数についての理解を深めるようにする。 ・計算ドリルを用いた宿題やワークシート等で既習の割り算や少数の計算問題の復習を繰り返し行うようにし、計算技能の定着に努める。 ・授業の中で、自分の考えをノートへまとめ、児童同士で説明し合う機会を増やすことで、明瞭に説明する力を高めるようにする。
図形	○「図形」の平均正答率は、県の平均正答率を9.5ポイント、市の平均正答率を8.6ポイント上回っている。 ○三角定規を組み合わせてできた角の大きさを求める式を選ぶ問題や、ものの位置の表し方から、もとにする位置を選ぶ問題では、県や市の平均正答率を大きく上回っている。 ●三角定規を組み合わせてできた角の大きさを求める問題では、県や市の平均正答率を上回っているが、62.3%とやや低い。	・引き続き図形についての基礎的基本的な既習事項を確認しながら丁寧に指導し、繰り返し練習を行うことで定着を図るようにする。 ・三角定規など、実物を動かす活動を取り入れるようにする等、体験を通して実感できる機会を増やすように努める。 ・児童の理解に応じて練習を工夫したり、練習の機会を設けたりする等、指導の充実に努める。
変化と関係	○「変化と関係」は、県や市の平均正答率とほぼ同等である。 ●割合を使った長さの求め方を説明する問題では、県の平均正答率を9.3ポイント、市の平均正答率を7.3ポイント上回っているものの、正答率は低い。 ●伴って変わる2つの数量の関係を式に表す問題では、県や市の平均正答率とほぼ同等であるものの、正答率は低い。	・日常生活と学習内容が結びつくよう、生活の様々な場面において伴って変わる2つの数量に触れ、変化の関係性について気付かせるようにする。 ・表や文章から数量の変わり方を読み取ったり、数量の関係を考えたりする活動を丁寧に扱い、児童同士で説明し合う活動を取り入れることで、数量関係の変化の理解を深めるようにする。
データの活用	○「データの活用」の正答率は、県や市の平均正答率とほぼ同等である。 ○二次元の表の意味を理解しているかどうかをみる問題では、正答率が高く、84.9%であった。 ●折れ線グラフと棒グラフの複合グラフから傾向を読み取る問題では、県や市の平均回答率を約5ポイント下回った。	・今後も算数の時間だけでなく、理科や社会、総合的な学習など他教科での学習を通して、様々なグラフや表を活用する機会を増やし、グラフに慣れるようにしていく。 ・折れ線グラフや表などを正確に読み取ったり、根拠を明確にして説明したりする活動を取り入れ、複合グラフなどを利用した分類整理の考え方を正しく捉える力を伸ばすようにする。

宇都宮市立城東小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	59.0	64.3	63.2
	「粒子」を柱とする領域	57.9	55.4	55.1
	「生命」を柱とする領域	82.7	80.1	79.3
	「地球」を柱とする領域	59.9	56.4	55.8
観点	知識・技能	67.7	66.0	65.3
	思考・判断・表現	59.7	57.9	57.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	●「エネルギー」を柱とする領域の平均正答率は、県の平均正答率を4. 2ポイント、市の平均正答率を5. 3ポイント下回っている。 ○検流計のしくみや、乾電池のつなぎ方を変えた時の電流の向きや大きさについて理解しているかどうかをみる問題では、県の平均正答率を6. 7ポイント、市の平均正答率を4. 3ポイント上回っている。 ●直列つなぎを理解しているかどうかをみる、短答式の問題では、正答率は県や市を5ポイント下回り、無解答率も県を10. 1ポイント、市を8. 9ポイント上回っており、学習したことを表すことに苦手意識をもっている。	・実験、観察の結果を表やグラフ、図などに整理してまとめ、結果から考えられることについてグループやクラスで意見を交換しながら、より内容の理解を深めるようにする。 ・導入や考察において、自分の考えを書いたり、話したりする機会を設け、課題について根拠のある予想をしたり、学んだことを身の回りの現象に結び付けたりすることができるようにする。
「粒子」を柱とする領域	○「粒子」を柱とする領域の平均正答率は、県の平均正答率を2. 8ポイント、市の平均正答率を2. 5ポイント上回っている。 ○ガラス瓶の上の1円玉が動いた理由を、温められた空気の性質と関連付けて表現できるかどうかをみる記述式の問題では、県の平均正答率を8ポイント、市の正答率を6. 7ポイント上回っている。 ●エアコンの吹き出し口の向きが変化した理由を、暖められた空気の動きと関連付けて考えることができるかどうかを見る記述式の問題では、県や市の平均正答率を6. 5ポイント下回っており、正答率も32. 1%と低い。	・日々の生活の中で、身の回りで起きている事象について根拠と結び付けて考えたり、説明したりする機会を意図的に設定し、科学的思考を深められるようにする。 ・自分の考えを記述する際は、どういったことに着目して書くかについて丁寧に指導し、表現することへの苦手意識や抵抗感を減らしていく。
「生命」を柱とする領域	○「生命」を柱とする領域の平均正答率は、県の平均正答率を3. 4ポイント、市の平均正答率を2. 6ポイント上回っている。 ○関節について理解しているかどうかをみる問題では、県の平均正答率を9. 9ポイント、市の平均正答率を10. 8ポイント上回っている。 ●骨のはたらきについて理解しているかどうかをみる問題では、平均正答率は県や市とほぼ同等であるが、44. 5%と正答率が低い。	・教科書の資料以外にも、模型やICTなどを活用し、目で見たり、触れたりできる資料を提示することで、体の構造や骨のつくりについて理解を深められるようにする。
「地球」を柱とする領域	○「地球」を柱とする領域の平均正答率は、県の平均正答率を4. 1ポイント、市の平均正答率を3. 5ポイント上回っている。 ○1日の気温の変化の様子を表したグラフを、正しく読み取ることができるかどうかをみる問題では、県の平均正答率を6. 5ポイント、市の平均正答率を4. 5ポイント上回っている。 ○雨の時の気温の変化を表したグラフを指摘し、選んだ理由を短い文で記述する問題では、県の平均正答率を5. 9ポイント、市の平均正答率を4. 1ポイント上回っている。	・天気については、学習した内容から実際の気温の変化に関係付けて天気を捉える活動を行い、実感が伴った理解が深まるようにする。

宇都宮市立城東小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの
○「家庭での学習」の質問では、「家で、学校の宿題をしている」「家で、学校の授業の予習をしている」の肯定的回答をした児童の割合や1か月に読む本の冊数は、県の割合を上回っている。	
○「教科の学習のこと」の質問では、「歴史上の人物や出来事を扱っているテレビを見たり本を読んだりするのは好きだ」に肯定的回答をした児童の割合が、県の割合を上回っている。	
●「家庭での学習」の質問では、「家で、自分で計画を立てて勉強している」「家で、学校の授業の予習をしている」「家で、学校の授業の復習をしている」「家で、テストで間違えた問題について勉強している」「家で、学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」「家で、勉強するときにだいたい同じ時刻に取り組むようにしている」に肯定的回答をした児童の割合が、県の割合を下回っていた。引き続き、家庭学習の大切さを確認し、家庭学習の習慣が身に付くように指導を続けていく。	
●「学ぶ意欲」の質問では、「勉強していて、『不思議だな』『なぜだろう』と感ずることがある」「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」「難しい問題に出会うと、よりやる気が出る」「できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている」に肯定的回答をした児童の割合が、県の割合を下回っている。授業内容、学習形態など児童の学ぶ意欲が高まるように支援を続けていく。	
●「学校での様子」の質問では、「自分はクラスの人の役に立っていると思う」「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」「クラスは発言しやすい雰囲気である」「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる」「先生は学習のことについてほめてくれる」「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる」「自分はクラスの人の役に立っていると思う」に肯定的回答をした児童の割合が、県の割合を下回っている。児童が主体性をもち、前向きな気持ちで学校生活を送れるよう支援していく。	
○「家での生活」の質問では、平日の1日当たりの「テレビやDVD、動画などの視聴時間」「ゲームをする時間」の質問で、「2時間より少ない」と回答した児童の割合は、それぞれ61.3%、65.4%で、県の割合を15ポイント以上上回っていた。また、「携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間」の質問で、「1時間より少ない」と回答した児童の割合は44.9%で、県の割合を11ポイント以上上回っていた。(40%程度の児童は所持していない)家庭でルールをきちんと話し合い、約束を守って視聴したり、使用したりしている様子がうかがえる。	
●「自分自身のこと」の質問では、「難しいことでも失敗をおそれないで挑戦している」「自分の行動や発言に自信をもっている」「誰に対しても思いやりの心をもって接している」「自分のよさを人のために生かしたいと思う」に肯定的回答をした児童の割合が、県の割合を下回っている。児童の自己肯定感を高め、自信をもって生活できるよう支援していく。	
●「家族のこと」の質問では、「家の人と将来のことについて話すことがある」「家でのかまりや約束を守っている」に肯定的回答をした児童の割合が、県の割合を下回っている。	
●「教科の学習のこと」の質問では、すべての教科において「○○の学習は好きですか」の国語、社会、算数の教科において、また、「漢字の読み方や言葉の意味が分からないときは、辞書を使って調べている」「国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いている」「算数の授業で学習したことをふだんの生活の中で活用できないか考えている」に肯定的回答をした児童の割合が、県の割合を下回っている。児童が必要を感じて、前向きに学習ができるよう指導していく。	

宇都宮市立城東小学校（第4・5学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎的・基本的な知識・技能の定着	本校では、各学年で、漢字や計算を中心とする基礎的基本的な内容について、年間を見通して計画的に練習や確認などを行い、定着に努めている。また、朝の学習（パワーアップタイム）を活用して、学年や学級で、プリントやドリル学習などを計画的に実施している。	国語では、「言語の特徴や使い方に関する事項」の正答率は、5年生は県や市の平均正答率を上回っていたが、4年生は県や市の平均正答率とほぼ同等であった。しかし、5年生の熟語の漢字の組み合わせについての設問では、平均正答率は26.4%で、県や市の平均正答率を下回っていた。また、4年生の主語と述語についての設問では、県や市の平均正答率をやや下回っていた。 算数では、「数と計算」の基本的な内容の設問において、県や市とほぼ同等であるかやや下回っているものが多い。5年生の分数に関する設問では、正答率が39.6%と低く、県や市の平均正答率を9ポイント程度下回っていた。また、4年生の分数の大きさに関する設問では、県や市の平均正答率を15ポイント程度下回っていた。
児童が学ぶ楽しさを味わい、進んで考える授業づくり・学びの「城東スタイル」	本校では、学びの「城東スタイル」を掲げ、学校全体で共通理解のもと、児童が学ぶ楽しさを感じながら、思考力・判断力・表現力を発揮して、主体的に学習活動に取り組めるような授業づくりを目指している。めあてを明確に示して、見通しをもって自らの課題に取り組んだり、友達と学び合ったりできるような学習環境づくりに努めている。	5年生も4年生も、算数と理科において、「思考・判断・表現」の観点で、県や市の平均正答率を若干上回っていた。質問紙において、「授業であつかうノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いている」と回答した児童の割合は、5年生では県の割合を7.8ポイント下回っており、4年生では県の割合とほぼ同等であった。また、「クラスの友達との間で、話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と回答した児童の割合は、5年生では県の割合を8.9ポイント下回っており、4年生では県の割合を5.1ポイント上回っていた。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
--------------	--------	-----------

4年国語の「書くこと」では、全ての設問で県や市の平均正答率を20ポイント程度下回っており、無回答率も全て34.8%と高かった。 5年国語の「書くこと」では、全ての設問で県や市の平均正答率を下回っており、無回答率も全て24.5%であった。 5年算数の、計算のきまりを基に計算の間違いを説明する記述式の設問では、県や市の平均正答率を7ポイント程度下回っており、正答率は49.1%であった。	自分の考えを文章や図等で表現し、他者に分かりやすく伝える力の育成	各教科等でめあてやねらいを明確にし、目的や相手を意識して児童が自分の考えを表現したり、互いに考えを伝え合ったりする活動が充実するような授業づくりを目指していく。また、授業のまとめや振り返りにおいて、学習したことをよく考えさせて文章に表すよう指導していく。 根拠を明確にして、言葉や文章で説明したり表現したりする活動を意図的に設定し、話すことや書くことに慣れさせるようにする。その際、目的や相手を意識させ、分かりやすく伝えるための工夫に着目させるようにする。 「かきかきタイム」を計画的に実施し、書くことへの苦手意識を軽減させ慣れさせるように、内容や取り組み方を工夫する。 理科で実験や観察を行う際は、目的や相手を意識して考察することができるように指導し、結果を表やグラフ、図などに整理してまとめた後、改めて学習課題について振り返らせる活動を重視していく。
---	---	---